

全知P連だより

No. **17**

令和6年度 定時総会

全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会



令和6年 6月28日(金)、品川シーズンテラスにおいて
全知P連「令和6年度 定時総会」を開催いたしました

- | P2 第35代会長挨拶
- | P3 副会長抱負
全知長(本会相談役)挨拶
- | P4 調査研究助成事業について
能登半島地震義援金のご報告とお礼

「レジリエンス(やり過ぎず力)を養うことの大切さ～英国PTA活動」



全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会 会長
東京都立小金井特別支援学校 PTA会長
富永 美和

全国特別支援学校知的障害教育校 PTA 連合会 第35代会長を務めます、都立小金井特別支援学校 PTA の富永 美和です。どうぞよろしくお願いいたします。

息子について 中学3年生の息子は知的発達症と自閉スペクトラム症をもっており、物事の見通しが立っていることや日々のルーティンが整っていることで心身が整うタイプです。小学6年生の2月から都立小金井特別支援学校に毎日楽しく通っております。高等部進学も楽しみにしている様です。趣味は水泳、マラソン、ゲーム、料理です。毎週楽しみにしているテレビ番組を観るために、土曜日の17時、日曜日の18時はテレビの前が指定席になっています。

王様モードからの脱却 幼児期から小学校低学年の頃、息子は家でも学校でも外出先でも「王様」でした。家族は何をするにも機嫌を損ねないように気を使い、痲癩をおこさないように本人が求めるものを与えてどうにかやり過ぎていました。ASD専門の特別支援学校に入学し、PECS(ペックス)を使って前もって見通しを立て、Social story(ソーシャルストーリー)をするようにと学校からアドバイスをいただきました。単語でしかやりとりができなかったのが、PECSの他、Makaton(マカトン)を使ったり、絵を描いてお互いを理解し合いました。息子の要求をはじめ理解できたのは、6歳の頃、小さい紙にアイスキャンディーの絵を描いて、「どこ?」と書いてありました。それを見た時は感動のあまり涙が出ました。

学校で一貫性ある生活を繰り返すことで、ルーティンが身につく、自分自身に自信もついたので、時にいつもと違うことが起きたり、息子の思い通りにならないことがおきても、小さなこだわりであれば乗り越えられる様になりました。痲癩を起こしても復活するまでの時間が少しずつ短くなっていきました。今までは予想外の出来事が起こると、この世の終わりかの様ひっくり返っていた息子でしたが、「次回」があることを理解し始め、徐々に王様モードを脱却していきました。

先生方が根気強く日々向き合ってくれたことで、息子がレジリエンスを身につけることができ、痲癩が減り、接しやすくなったことで、家族は救われた思いがしました。家庭でもスモールステ

ップではありましたが、小さなこだわりを乗り越えることを増やし、わざと間違えたり、予定外の出来事を差し込んでみたりしながら、やり過ぎず力を育てていきました。

イギリスのPTA活動 全知P連HP会長挨拶のページに、イギリスでのPTA活動についてお話しできる時とお伝えいたしましたので、ここで少しだけお話しさせていただきます。現地の小学校、特別支援学校、日本人学校それぞれの学校でPTA活動に関わらせていただきました。日本のPTA活動と大きく違うのは、PTA自体がチャリティー団体として登録されており、潤沢な資金集めをある程度の方法範囲内で自由にできるところでしょうか。集めた資金は学校に必要な物品の購入に充てたり、遊具を増設したり、夏祭りなどのイベント資金にしていました。募金活動としては、家の未使用品を売るなどのバザー、古着回収(重さで換算)、制服の再販、マラソンイベントへの参加などがあります。私も実際ハーフマラソンを走りました。友人や知人から募金があると、私が所属していたPTAチームのアカウントに集められます。チームは20人前後、当日はチームのユニフォームを着て、保護者はもちろん、校長先生や、学校の先生も走りました。チーム全員で集めた資金で子供たちが学校で使うためのパソコンや図書室の本を購入することができました。子どもたちの学校での楽しみを増やしたり、学習を応援することに貢献させていただいたことは私にとってもいい思い出となっています。

全知P連会長としての抱負 海外での特別支援教育の取り組みを見て、経験してきた中で、実際に教育現場で一員として働いてきた経験、さまざまな学校のPTA活動をしてきた経験ベースに、日本の良さ、日本ならではのPTAの良さ、強みがあると感じています。一人一人が感じる想いを団体として伝えること、様々な団体から要望を出していくことで、よりインパクトのある関係機関に直接想いを届けることができています。個人ベースではなかなかできることではありません。こうした取り組みは日本のPTA連合会の強みであると言っても過言ではありません。

全国の知的障害教育校とその会員の皆様がつながりを感じ、安心感をもって子供たちを支えていけるような環境を促進し、全国で行われている活動を共有していくことは、知的障害教育の発展向上、福祉増進、会員同士の親睦を深めていくために必要不可欠なことです。関係機関の皆様とのつながりを大事にしながら、子どもたちの今、そして近い未来から遠い未来の安心と幸せを願い、全知P連としてどのような分野にスポットを当てていくかは、時代の流れを感じ取りながらしっかりと見極め、皆様に発信してまいります。つながることは障害を持つ当事者とその家族にとっての要であり、安心をもたらすと共に勇気をもたらします。そして障害を持つ子供たちと親が抱える不安や恐怖を乗り越えていく力になるよう1年間頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

全知P連副会長としての抱負

- ・市立札幌豊明高等支援学校 神内 由美子
感染症対策も縮小された今、PTAでできる活動の幅も広がってきました。みなさんの地域でのさまざまな活動、やって良かったことなどを、共有しあえる1年にしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
- ・山形県立鶴岡高等養護学校 菅原 綾
まさか自分がこのような大役を務めることになるとは、想像もしていなかったというのが正直な気持ちではありますが、全国各地の関係者の皆様との出会いがあり、子ども達のためにこんなにも多くの応援者がいることを知ることができました。時代の変化、多様性により変化していく障害児者への希望を皆様と共有できていけたらと思っております。
- ・長野県諏訪養護学校 山崎 力
今年度、副会長になりました関東甲信越ブロックの山崎です。子供たちが安全で楽しくのびのびと学校生活が送れるよう、皆さんと良くコミュニケーションをとり、協力して取り組んでいきたいと思っております。よろしく申し上げます。
- ・東京都立青島特別支援学校 花澤 雪乃
東京ブロックの各PTAの様子や活動内容を他の副会長のみなさまと共有

「令和の時代のPTA活動の推進」

今年度、全国特別支援学校知障害教育校長会会長を務めました。東京都立水元小小学園 校長米谷一雄です。3年目になりました。全知P連では、相談役という役割になります。微力ではありますが、全知P連の活動に少しでも力になればと思えます。能登半島地震については、昨年度、夏に全知P連の全国研究協議大会が4年振りに石川県で開催され、石川県の特別支援学校PTAのみなさんのエネルギーを肌で感じた矢先の出来事に、とても胸を痛めています。一日も早い復興を願っています。

早いもので、令和になってから5年の歳月が経ちました。令和2年からは新型コロナウイルス感染症の影響もあり、新たな時代への大きな変革を迎えています。取り分け、ICTの進歩、オンラインの普及、デジタル化の推進は目を見張るものがあり、急激に進化を遂げています。全知P連の会合や全国研究協議大会も参集型に加えて、オンラインの活用やハイブリッド形式で実施をしています。対面形式のメリットも残しつつ、状況や内容に応じて変更していくことは必要なことだったと思えます。今後、会員の皆さまからの御意見をいただきながら、会の運営を充実させていただければと存じます。話題は変わりますが、令和5年6月に文部科学省が発表した教育振興基本計画(令和5年度～9年度)では、次期計画のコンセプトとして、日本社会に根差したウェルビーイングの向上の中に、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方が示され、今後の教育政策に関する基本的な方針には、地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進を挙げています。

これは、今年度57年目を迎える全知P連が、これまでに積み上げてきた活動や現在、50周年東京大会から続くテーマ「多様性を認め合い共に育む心のネットワーク～すべては子供たちの笑顔のために～」と結びつく内容であり、地域や家庭、社会をつなげるネットワークは、PTA活動の目指すものと合致していると思えます。子供たちが元気で、そして、笑顔でいるためには、保護者、学校、地域、社会が元気でなくてはなりません。言葉

し、他地域の報告を還元することで、全国の児童生徒のみなさんが暮らしやすく学びやすい環境づくりに少しでも貢献できたらと思っております。

- ・富山県立にかわ総合支援学校 野澤 良民
子ども達の幸せのために親として社会の一員として 何が必要で、何をすべきか、今出来ることは何か。その為に、経験や出会いを通して多くの事を学び自身を高め、そこから行動に繋げたいと考えています。
- ・奈良県立大淀養護学校 三谷 初代
経験値の高い会長様、副会長の皆様方に刺激を受けて、不安を打ち負かすほど楽しみな一年が始まりました。小さなことでも情報交換して、皆様の助けになればと思います。
- ・島根県立石見養護学校 三浦 健史
今年度、全知P連副会長を務めさせていただく事となりました。分からない事も多いですが、沢山の方と繋がり、貴重な経験を通して会の発展に貢献して行けたらと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・鹿児島県立武岡台特別支援学校 里園 栗実
コロナ禍を乗り越え、人と繋がる大切さ、有難さを感じた近年、特に子どもたちのより良い未来の為に色々な情報を手に入れるネットワーク作りが必要な特支の保護者の皆様に、少しでも何かお役に立てれば嬉しいです。

にするのは簡単ですが、どのように行動に移していくかが重要となります。全知P連が中心となって全国のPTA活動を活気ある活動にしていくことが求められています。

さて、今、世の中では、学校教育や学校現場の話題が、様々に上がってきています。中でも、教師不足と働き方改革については、大きな課題の一つです。これは、実は、PTAの組織にとっても同様のことが言えると思えます。役員の成り手不足や働きながら活動に参加する方が多い中で、役割分担や業務軽減、オンラインや自宅でできる業務への転換等、それぞれ工夫をされていると思えます。学校もPTAも、子供たちの成長のためという目的は変わりません。一人でも、理解者や支援者を増やすためにも、地道に活動や成果を発信していくことが、実は近道なのかもしれません。つつい、不足していると増やそうという意識が働きますが、減らさないことも、とても大切なことだと思います。PTAに参加して、とても勉強になりましたという声は、いつの時代も聞かれます。今後も、ぜひ、そのような声がたくさん聞かれる活動にしていだければ幸いです。

携帯電話、特にスマートフォンの普及により、情報の発信や連絡は、いつでも、どこでも、誰とでもとれるようになりました。一方で、同じ空間にいるのに、直接話をせずに、携帯でやりとりをしている話も聞きます。人と人との関わりや顔を合わせるからこそ通じ合える喜びを失うことがないように、これからのコミュニケーションの在り方についても、一緒に考えていきましょう。

結びに、新会長の富永会長をはじめ、役員の方々を中心とした、全知P連の活動の一層の充実と会員の皆様一人一人のますますの御健勝を祈念して、挨拶とさせていただきます。



全国特別支援学校知的障害教育校長会 会長
東京都立水元小小学園 統括校長
(本会 相談役)
米谷 一雄

事業 案内

【調査研究助成事業について】

本会では、全国の各ブロック・都道府県PTA連合会・加盟校の単位PTAによる地域特性を生かしたPTA活動の推進、啓発（講演会や冊子制作等）や調査研究（アンケートや実態調査等）の活動を支援しています。

研究内容は、全国共通の課題、または地域特性の課題ではあるものの各地域に参考になる研究内容であることとし、特にテーマについての制限はありません。



これまでの取組み

募集期間：1月～4月中旬（12月頃お知らせをブロック長宛に送付・HPにも掲載）

選定機関：当該年度の最終の会長・副会長会において選定（5月予定）

選定数：3件まで

助成額：1件につき上限額40万円

報告書：各校2部発送（2月～3月頃）



取組み ご紹介

【今年度、調査研究助成事業に取り組む学校PTA】

取組 千葉県立香取特別支援学校PTA

テーマ かとりん「防災ハンドブック」の作成
～学区の2市3町ためにおける知的障がい・発達障がい児のために～

想い 映画「ゴジラ-1.0」がアカデミー賞を受賞しました。
-1.0には、戦後で0(ゼロ)になった日本を更にマイナスへ…という意味があるそうです。
学校は事故0で、安全安心な場所でなければなりません。学校をマイナスに陥れる要素は、自然災害だけでなく、交通事故やSNSトラブルなど、社会要因による人的災害も数多くあります。
マイナスの要素を一つ一つ消していくために本年度は、研究助成事業を活用し安全で安心な学校づくりを学校とPTAで進めたいと思います。



【能登半島地震義援金のご報告とお礼】

令和6年度能登半島地震義援金へのご協力ありがとうございました。

多くの皆様からのお寄せいただきました義援金総額は、以下のとおりとなりましたのでご報告いたします。

10,020,000円

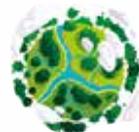
石川県・富山県・新潟県の各県知P連を通じて被災された学校、PTAのためにお役立ていただけるよう、お届けさせていただきました。

皆様の温かいご支援ご協力に深く感謝申し上げますとともに、一日も早い復旧復興をご祈念申し上げます。

【編集後記】

近年の災害は地震だけでなく、集中的な豪雨による河川の氾濫や土砂災害が日本のあらゆるところで発生しています。

子ども達の命を守るためにも、早めの備え、早めの避難行動を。



今年度は秋に 会報「明日を拓く」(会員全員配付)と、年明け「全知P連だより」第18号の発行を予定しております。

調査研究助成事業報告書では防災に関する情報も発信されますので、ぜひご一読ください。

